



①認知症の進行と主な症状例

(代表的なアルツハイマー型認知症の進行パターン)

認知症の進行（右に行くほど発症から時間が経過し、進行している状態）

認知症の進行	年相応のものの忘れ	認知症の疑い（MCI）※P3 参照	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子	◇年相応のものの忘れはあるが、時間をかければ思い出すことができる ◇日常生活に何も支障がない ◇日常のことは普通にできる	◆ものの忘れはあるが、金銭管理や買い物、書類作成などを含め、日常生活は自立している ◆日常のことは普通にできる	◆買い物や事務、金銭管理などにミスは見られるが、日常生活はほぼ自立している ◆ゆっくりと時間をかければ、日常のことは大体できる	◆薬の管理ができない ◆電話の対応などが1人では難しい ◆季節にあった服が着られない ◆昔得意だった手仕事などは上手にできる ◆外出して戻れなくなる	◆着替えや食事、トイレ等がうまくできない ◆入浴を嫌がる ◆単純な作業ならできる	◆ほぼ寝たきりで、意思の疎通が難しい ◆できることが少なくなり、全面的に介助が必要になる
生活への支障は？	◇特に支障はない 	◆本人は違和感があっても、生活上は特に支障を感じないため、見過ごしてしまう ◆家族は気づかない	◆本人・家族も異変に気づいてくるが、「認めたくない」という気持ちが強い ◆生活上それほど大きな支障はまだない	◆失敗が増え、本人・家族も認めざるを得なくなる ◆生活にも支障が出てくる ◆本人の能力はまだ残っているが、意欲がなくなり、やる気が出ない	◆できないことが増える ◆生活上の支障が一気に増える <div>※家族の介護負担が大きくなっていく時期</div>	◆できることが、ごく少なくなってくる ◆生活のほとんどの場面で支障がある ◆外出することも難しい
必要なことは？	◇本人や家族に情報提供や声かけを行い、認知症の予防を促す ◇生き生きと過ごせるような環境をつくる	◆本人の異変を、家族に上手に伝え、認知症に気づいてもらう ◆相談窓口への相談 ◆かかりつけ医への受診・相談を促す	◆ちょっとした手助けや見守り ◆本人の「できること」を活かした支援（できることをとりあげない） ◆社会とのつながりの維持 ◆1人で外出した際の安全の確保	◆周囲の理解・心遣い ◆安全の確保 ◆本人の「できること」を活かした支援（できることをとりあげない） ◆社会とのつながりを維持させる ◆家族への支援、ねぎらい、骨休め	◆地域の見守り・協力 ◆必要な医療の提供 ◆介護保険サービス ◆合併症の予防	
本人ができること	「あんしんハンドブック」を活用して、自分の「想い」を記録しておきましょう（※P4参照） 認知症サポーター養成講座の受講 認知症（進行）予防／認知症になった際の希望を周囲に伝えておく／人とのつながりを持つ できることは「自分でする」を心がける					
家族や周りができること	認知症を理解する（認知症サポーター養成講座の受講）／本人の見守り 本人の「できること」を活かした支援（できることをとりあげない）／相談窓口に相談する かかりつけ医への相談・早期受診 急変時の対応 家族間で介護のことやこれからのことについて話し合う 介護する人の健康管理・介護サービスを上手に活用して負担を軽減					